

Oracle® Server X6-2 Windows オペレー ティングシステムインストールガイド



Part No: E73669-01
2016 年 4 月

Part No: E73669-01

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
製品ドキュメントライブラリ	7
フィードバック	7
 Microsoft Windows Server オペレーティングシステムのインストールについて	9
Windows Server OS インストールのタスクマップ	9
サポートされている Windows Server オペレーティングシステム	10
Windows Server OS のインストールオプション	11
単一サーバーのインストール方法	11
Windows Server OS の手動インストール	12
Windows 展開サービスによる OS のインストール	12
 Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備	15
コンソール用ディスプレイのオプション	15
コンソール用ディスプレイのオプション	15
▼ ローカルコンソールを設定する	16
▼ リモートコンソールを設定する	17
ブートメディアオプションの選択	18
ブートメディアオプションの要件	18
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する	19
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する	20
ブート環境の準備	22
▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する	23
▼ ブートモードを設定する	26
インストール先の選択	28
インストール先のオプション	28
▼ ローカルストレージドライブをインストール先として設定する	29
▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する	29

RAID の構成	29
Windows Server オペレーティングシステムのインストール	31
準備作業	31
Windows Server の単一システムへの手動でのインストール	32
▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 R2 を手動でインストールする	32
▼ PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 R2 をインストールする	51
Windows Server OS インストール後のタスク	57
デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール	57
▼ サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする	57
Intel NIC チーミングの構成	58
索引	61

このドキュメントの使用方法

- **概要** – このインストールガイドでは、Windows Server オペレーティングシステムのインストール手順と、Oracle Server X6-2 を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムをインストールした経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/x6-2/docs> で入手できます。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

Microsoft Windows Server オペレーティングシステムのインストールについて

このセクションでは、サーバーに新しい Microsoft Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を説明します。

説明	リンク
Windows Server オペレーティングシステムのインストール手順を確認します。	9 ページの「Windows Server OS インストールのタスクマップ」
サポートされている Windows Server オペレーティングシステムを確認します。	10 ページの「サポートされている Windows Server オペレーティングシステム」
オペレーティングシステムのインストールオプションを確認します。	11 ページの「Windows Server OS のインストールオプション」

関連情報

- [31 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール」](#)

Windows Server OS インストールのタスクマップ

次の表は、Windows Server オペレーティングシステムをインストールするための手順の一覧と説明を示します。

手順	説明	リンク
1.	プロダクトノートを確認します。	『Oracle Server X6-2 プロダクトノート』 (http://www.oracle.com/goto/x6-2/docs)
2.	サーバーハードウェアを設置します。	■ 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』 の「サーバーのラックへの設置」 ■ 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』 の「サーバーのケーブル接続と電源の投入」
3.	Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	■ 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』 の「Oracle ILOM への接続」

手順	説明	リンク
4.	サーバーでサポートされている Windows Server のバージョンを確認します。	10 ページの「サポートされている Windows Server オペレーティングシステム」
5.	Windows Server のインストールメディアを入手します。	http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx
6.	インストールの実行に使用するコンソール、ブートメディア、インストール先を設定します。	■ 15 ページの「コンソール用ディスプレイのオプション」 ■ 18 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 28 ページの「インストール先の選択」
7.	BIOS を確認し、必要に応じて構成します。	22 ページの「ブート環境の準備」
8.	Windows Server オペレーティングシステムをインストールします。	■ 32 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 R2 を手動でインストールする」 ■ 51 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 R2 をインストールする」
9.	インストール後のタスクを実行します (該当する場合)。	57 ページの「Windows Server OS インストール後のタスク」

関連情報

- [15 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備」](#)

サポートされている Windows Server オペレーティングシステム

Oracle Server X6-2 は、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

Windows OS	エディション
Windows Server 2012 R2	■ Standard Edition (64 ビット) ■ Datacenter Edition (64 ビット)

注記 - Windows Server オペレーティングシステムのすべての最新要件については、<http://www.oracle.com/goto/x6-2/docs> にある最新バージョンの『Oracle Server X6-2 プロダクトノート』を参照してください。

Windows ハードウェア互換リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムバージョンが示されています。Oracle Server

X6-2 でサポートされている Windows の最新バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスし、サーバーのモデル番号を使用して検索してください。

<http://www.windowsservercatalog.com/>

関連情報

- [31 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール」](#)

Windows Server OS のインストールオプション

Windows Server OS は、単一のサーバーにインストールすることも、複数のサーバーにインストールすることもできます。このドキュメントの範囲は、単一サーバーの OS インストールです。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用すれば、OS を複数のサーバーにインストールできます。 詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html にアクセスしてください。
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、OS を単一のサーバーにインストールします。 ■ ローカル: サーバーでローカルに OS のインストールを実行します。このオプションは、サーバーのラック内への物理的な設置を完了したばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: リモートの場所から OS のインストールを実行します。このオプションでは、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して手動 OS インストールを実行します。 単一サーバーの OS インストール方法の詳細については、 11 ページの「単一サーバーのインストール方法」 を参照してください。

単一サーバーのインストール方法

Windows のインストールメディアを提供する方法を選択します。次の情報を使用して、ニーズにもっとも適したローカルまたはリモートの OS インストールを決定します。

メディアの提供方法	追加要件
DVD ドライブを使用したローカル OS インストール – サーバーに接続された物理 DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB DVD ドライブまたはフラッシュドライブ、および Windows Server 配布メディア。ローカルインストールの場合は、サーバーに直接接続されたローカルの DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを使用してインストールメディアを提供します。詳細は、 12 ページの「Windows Server OS の手動インストール」 を参照してください。
DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用したリモートからの OS インストール – Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 DVD ドライブを使用します。	ブラウザを実行しているリモートシステム、物理 DVD ドライブまたはフラッシュドライブが接続されていること、Windows Server 配布メディア、サーバーの管理ポート (NET MGT) に対するネットワークアクセス。リモートインストールの場合は、リモートの DVD、USB フラッシュドライブ、または DVD ISO イメージを使用してインストールメディアを提供します。詳細は、 12 ページの「Windows Server OS の手動インストール」 を参照してください。
WDS WIM イメージ – Windows 展開サービス (WDS) サーバー上のカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用します。	WDS を実行しているサーバー、および使用しているサーバー用にカスタマイズされた WIM イメージ。詳細は、 12 ページの「Windows 展開サービスによる OS のインストール」 を参照してください。

Windows Server OS の手動インストール

この方法では、Windows Server の配布メディアを、ローカルまたはリモートの DVD ドライブ、USB デバイス、DVD イメージのいずれかで提供します。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

また、必要なドライバをすべてインストールすることも必要です。サポートされている OS のソフトウェアをサーバーにインストールするための推奨の方法は、InstallPack です。サーバーのドライバは、My Oracle Support の Web サイトから、OS 固有やサーバー固有のパッケージとして、あるいは ISO イメージファイルとして入手できます。手順については、[57 ページの「サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする」](#)を参照してください。

My Oracle Support にアクセスするには、<https://support.oracle.com> に移動します。

Windows 展開サービスによる OS のインストール

展開サーバー環境から Windows Server OS をインストールできます。上級ユーザーは、Windows 展開サービス (WDS) を実行しているシステム上のサーバー用にカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを作成できます。こうしたインストールイメージファイルを作成しておく、サーバーをそのネットワークカードからブートし、無人展開用に WDS システムからそのイメージを選択することが可能です。

WDS の詳細については、<http://technet.microsoft.com/library/hh831620>を参照してください。

Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
コンソール用ディスプレイのオプションとそれらの設定方法を確認します。	15 ページの「コンソール用ディスプレイのオプション」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法を確認します。	18 ページの「ブートメディアオプションの選択」
UEFI の設定。	22 ページの「ブート環境の準備」
ブートモードの設定。	26 ページの「ブートモードを設定する」
インストール先オプションとそれらの設定方法を確認します。	28 ページの「インストール先の選択」
サーバーでの RAID の構成。	29 ページの「RAID の構成」

コンソール用ディスプレイのオプション

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- [15 ページの「コンソール用ディスプレイのオプション」](#)
- [16 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [17 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

コンソール用ディスプレイのオプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
この端末は、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続された端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 4 つの外部 USB コネクタのいずれかに直接接続された VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

また、サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。リモートコンソールには、次の 2 種類があります。

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. 端末をシリアル管理ポート (SER MGT) に直接または端末エミュレータ経由で接続します。
端末デバイスを 9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビットに設定します。
2. 端末デバイスで **Enter** キーを押して、シリアルコンソールと **Oracle ILOM SP** との接続を確立します。
Oracle ILOM のログインプロンプトが表示されます。
3. **Oracle ILOM** にログインします。ログインプロンプトで、**Oracle ILOM** のユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は **root** であり、パスワードは **changeme** です。
CLI プロンプト (**->**) が表示されます。
4. ホストコンソールに接続します。CLI プロンプトで次のように入力します。
-> start /HOST/console
シリアル管理ポート出力は、サーバーのホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>)

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。

コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用して Oracle ILOM にリモートでログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレスを知っている必要があります。手順については、『[Oracle Server X6-2 設置ガイド](#)』の「[Oracle ILOM を使用してサービスプロセッサのネットワーク設定を変更する](#)」を参照してください。

2. Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。

a. サーバーのネットワーク管理ポート (NETMGT) にアクセスできるリモートシステム上で、Web ブラウザを開きます。

b. Web ブラウザでサーバー SP の IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。 Oracle ILOM のログインプロンプトが表示されます。

c. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。Oracle ILOM ログインで、Oracle ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、パスワードは changeme です。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。

d. Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動することによって、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。「Actions」パネルで、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラス画面が表示されます。

詳細については、『[Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド](#)』(<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>) を参照してください。

3. SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。

a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します。次のように入力します。

```
ssh root@hostname
```

ここで、*hostname* にはサーバー SP の DNS 名または IP アドレスを指定できます。

Oracle ILOM のログインプロンプトが表示されます。

- b. **Oracle ILOM にログインします。ログインプロンプトで、Oracle ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。**
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、パスワードは changeme です。
Oracle ILOM CLI のプロンプト (->) が表示されます。
- c. **シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。CLI プロンプトで次のように入力します。**
-> `start /HOST/console`

関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>)

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースと各ソースのセットアップ要件について説明します。

- [18 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [19 ページの「ローカルインストール用のブートメディアを設定する」](#)
- [20 ページの「リモートインストール用のブートメディアを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [18 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [19 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります。

- DVD-ROM インストールメディア
- USB リムーバブルフラッシュドライブメディア

リモートブートメディアの要件

リモートメディアでは、ネットワーク経由でインストールをブートする必要があります。インストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、または Pre-Boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク経由で ISO イメージをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースを次に示します。

- DVD-ROM インストールメディア
- リモート USB リムーバブルフラッシュドライブインストールメディア
- 仮想リダイレクション用に設定されたネットワーク上の場所で使用できる DVD ISO イメージ
- サーバーのサービスプロセッサ (SP) 上にマウントされた DVD-ROM インストールメディアイメージ

インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、『*Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド*』(<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>) を参照してください。あるいは、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

- 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)。サポートされている Windows Server オペレーティングシステムの PXE ネットワークインストールを実行する手順については、[51 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 R2 をインストールする」](#)を参照してください。

▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Windows Server OS のインストールメディアを含むストレージデバイスをサーバーに挿入する必要があります。

1. **Windows Server 2012 R2 OS インストールメディアを入手します。**

<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx> から Windows Server インストールメディアを取得します。

2. サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバーの前面に配置されている DVD ドライブに Windows Server OS インストール DVD を挿入します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
3. サーバーに DVD ドライブが装備されていない場合は、サーバーの前面および背面に配置されている外部 USB ポートのいずれかに、Windows Server OS のインストールメディアを含む外付け USB DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを挿入します。

注記 - サーバーの外部 USB ポートの場所については、『[Oracle Server X6-2 設置ガイド](#)』の「[サーバーの機能とコンポーネント](#)」を参照してください。

▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して、リモートの場所をソースとするメディアから OS をインストールするには、次の手順を実行します。

1. **OS ブートメディアをマウントまたは認識させてアクセスできるようにします。例:**
 - **DVD-ROM の場合は、**リモートシステム上の内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - **DVD-ROM ISO イメージの場合は、**ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに使用可能であること、またはサーバーのサービスプロセッサ (SP) にマウントされていることを確認します。

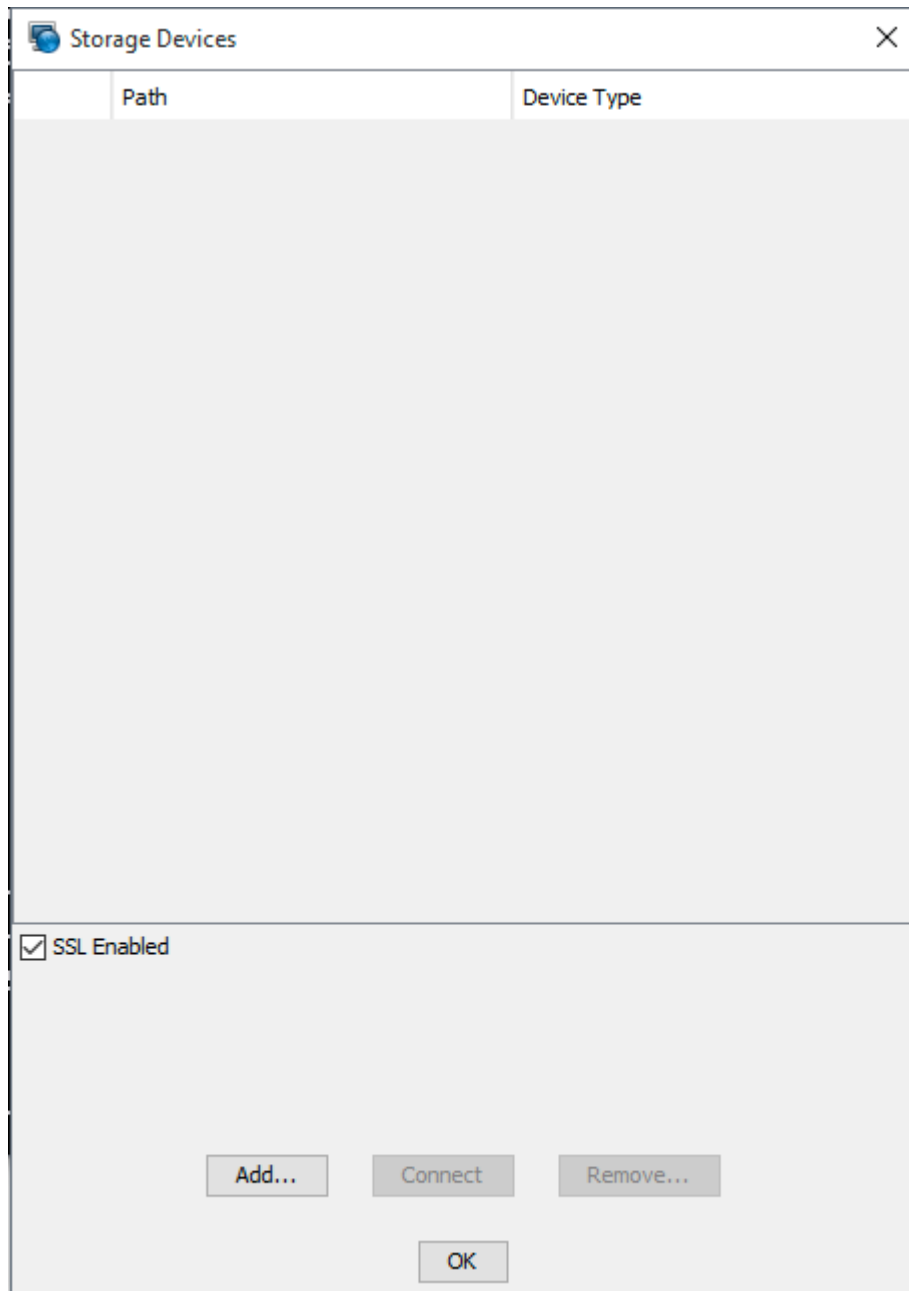
インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、『*Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド*』(<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>) を参照してください。あるいは、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

2. サーバーの Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、リモートシステム上の Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動します。

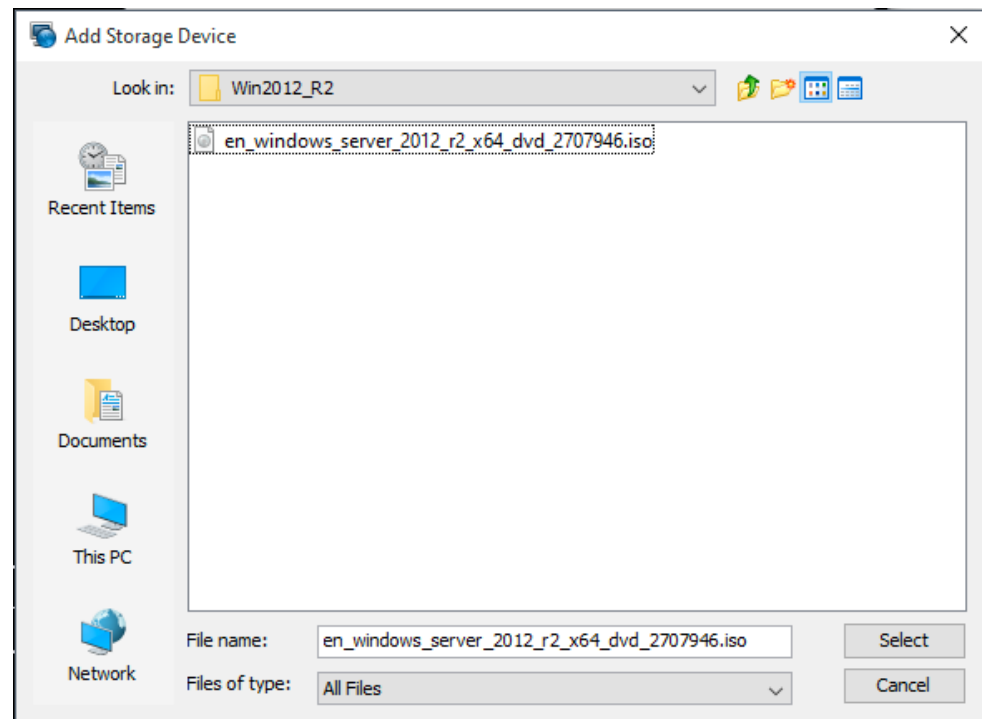
詳細については、[17 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)を参照してください。

3. リモートコンソールで、次を実行します。
 - a. 「KVMS」をクリックして、「KVMS」ドロップダウンメニューを表示します。
 - b. 「Storage」をクリックします。

「Storage Devices」ダイアログが表示されます。



- c. 「Storage Devices」ダイアログで、「Add」をクリックします。
「Add Storage Device」ダイアログが表示されます。



- d. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。
「Storage Devices」画面が表示され、ISO イメージが一覧表示されます。
- e. ISO イメージを選択し、「Connect」をクリックします。
ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。

ブート環境の準備

Windows Server オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) 設定が構成されていることを確認するようにしてください。

次のトピックは、インストールをサポートするように UEFI を構成する方法に関する具体的な手順を示しています。

- 23 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」
- 26 ページの「ブートモードを設定する」

ブートプロパティの変更の詳細については、『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86admindiaq/docs>) を参照してください。

▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する

注記 - サーバーが新しく設置され、オペレーティングシステムがはじめてインストールされる場合は、おそらく UEFI がその最適なデフォルト設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて UEFI 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することによって、サーバーが既知の適切な構成で効率的に動作することが保証されます。最適なデフォルト値は、『Oracle Server X6-2 サービスマニュアル』で確認できます。

F2 キーを使用して BIOS 設定ユーティリティで行なった変更はすべて、次回に変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 キーを使用して一時ブートデバイスを指定することもできます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートでのみ有効です。一時ブートデバイスからブートしたあとは、F2 キーを使用して指定された常時ブートデバイスが有効になります。

開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- サーバーに HDD または SSD が正しく取り付けられています。手順については、『Oracle Server X6-2 サービスマニュアル』の「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、15 ページの「コンソール用ディスプレイのオプション」を参照してください。

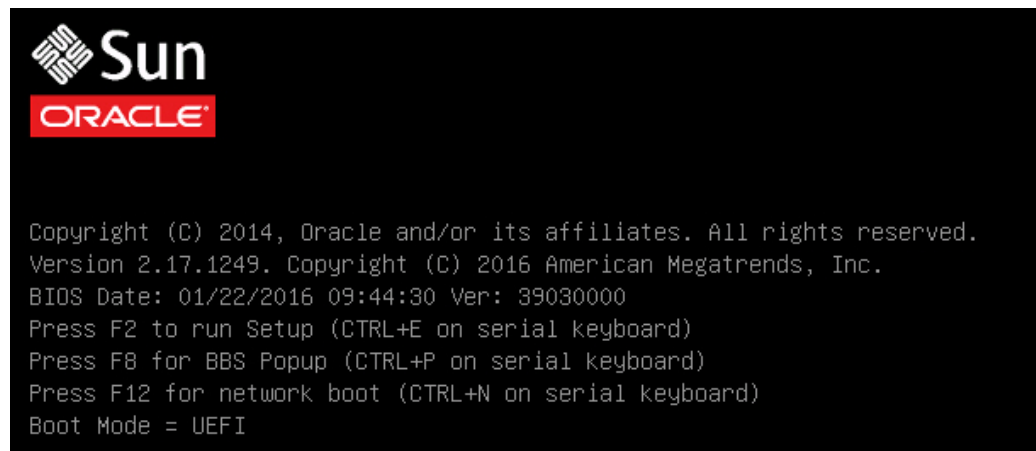
1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを行なってサーバーをリセットします。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、「`reset /System`」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。

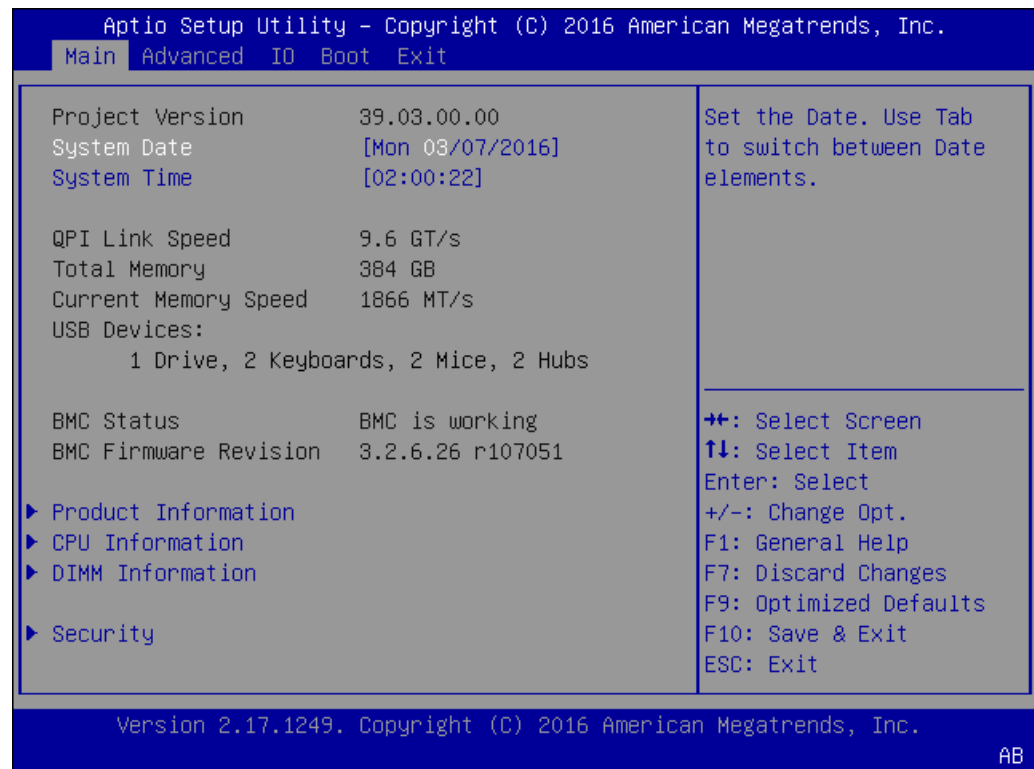
注記 - BIOS 画面の表示には少し時間がかかることがあります。



注記 - 次のイベントは非常にすばやく起こるので、F2 キーを押す準備をしておいてください。メッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大することをお勧めします。

2. **BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**

[Setup Selected] およびブートモード (レガシーまたは UEFI) が BIOS 画面の最下部に表示されたあと、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



3. **F9 キーを押して、最適なデフォルト設定を自動的にロードします。**
「OK」を選択してこの操作を続行するか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう求めるメッセージが表示されます。
4. **メッセージの「OK」を強調表示して、Enter キーを押します。**
5. **変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。**
あるいは、「Exit」メニューで「Save and Exit」を選択することもできます。

▼ ブートモードを設定する

サーバーには、レガシー BIOS と UEFI の両方のブートモードをサポートする Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) が装備されています。デフォルトでは、レガシー BIOS ブートモードが有効になります。Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステムはレガシー BIOS と UEFI の両方をサポートしているため、OS のインストールを実行する前に、ブートモードをレガシー BIOS または UEFI のどちらにも設定できます。

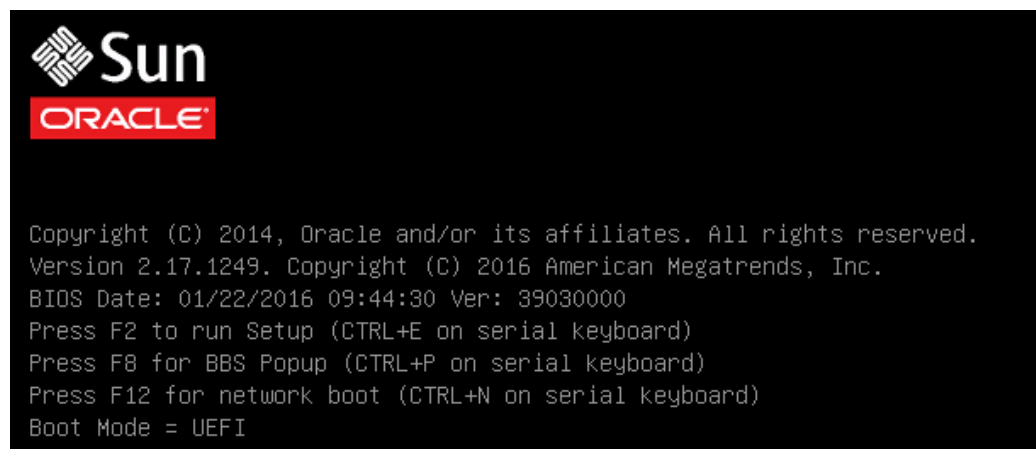
注記 - Windows Server オペレーティングシステムをインストールしたあとでレガシー BIOS ブートモードから UEFI ブートモードに (またはその逆に) 切り替えることにした場合は、すべてのパーティションを削除し、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを行なってサーバーをリセットします。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、「`reset /System`」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



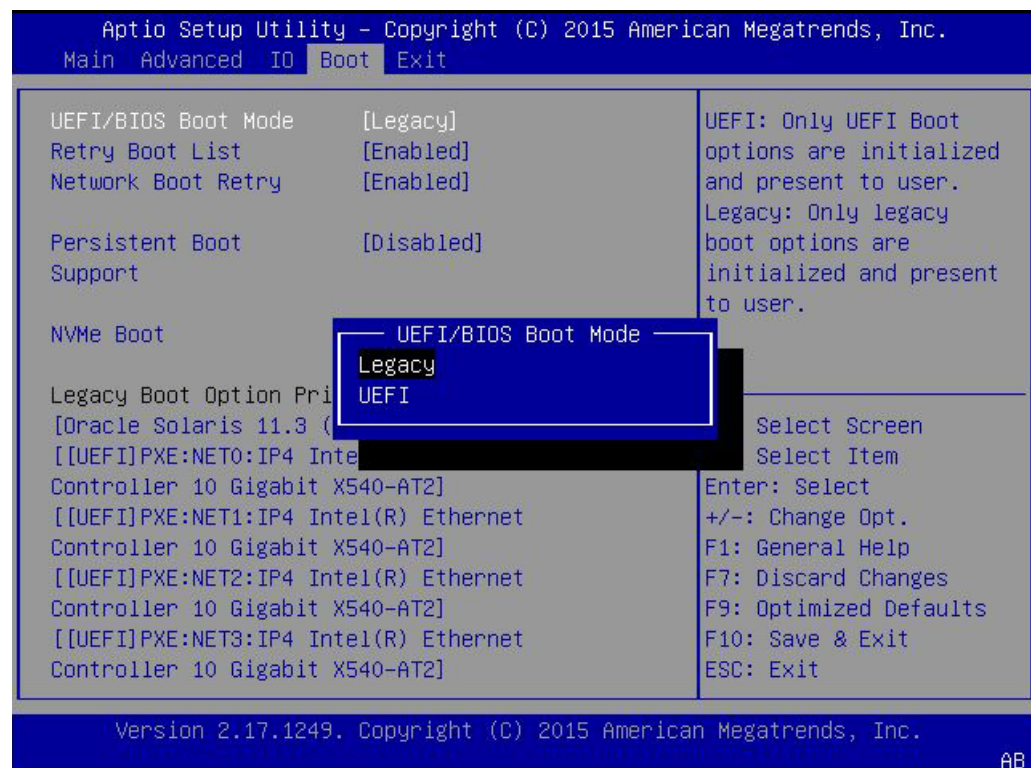
注記 - 次のイベントは非常にすばやく起こるので、F2 キーを押す準備をしておいてください。メッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大することをお勧めします。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。

「Boot」メニュー画面が表示されます。「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドに現在のブートモードが表示されます。



注記 - ブート順序リスト内のオプションは、ストレージドライブ構成や、永続ブートサポート機能を有効にしているかどうかによって異なります。永続ブートサポートの詳細は、<http://www.oracle.com/goto/x86admindiaq/docs> にある『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』を参照してください。

4. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter キーを押します。
5. 優先ブートモードを選択し、Enter キーを押します。
オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、ブートモード (レガシーまたは UEFI) を選択する必要があります。
6. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。
あるいは、「Exit」メニューから「Save and Exit」を選択できます。

インストール先の選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- 28 ページの「インストール先のオプション」
- 29 ページの「ローカルストレージドライブをインストール先として設定する」
- 29 ページの「ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する」

インストール先のオプション

オプションの NVMe ストレージドライブ (サーバーのフロントパネル) を除いて、サーバーに取り付けられた任意のストレージドライブにオペレーティングシステムをインストールできます。Windows Server オペレーティングシステムの有効なインストール先は、ハードディスクドライブ (HDD)、半導体ドライブ (SSD)、および RAID ボリュームです。

注記 - NVMe ドライブは、Windows Server オペレーティングシステムを実行しているサーバーではサポートされません。サーバーに NVMe ドライブが搭載されている場合、それらの NVMe ドライブを使用するには、Oracle Solaris または Oracle Linux オペレーティングシステムのどちらかをインストールする必要があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールすることを選択できます。

▼ ローカルストレージドライブをインストール先として設定する

1. ターゲットのドライブが環境に合わせて構成されていることを確認します。
デフォルトでは、サーバー内の各物理ドライブは論理 RAID 0 ボリュームとして構成されます。代替構成を実装するには、次のリソースを参照してください。
 - 『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「サーバーの機能とコンポーネント」
 - 『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86admindiaq/docs>)
2. ターゲットのドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) が正しく取り付けられており、電源が入っていることを確認します。
HDD、SSD、または RAID ボリュームを取り付けて電源を投入する方法については、『Oracle Server X6-2 サービスマニュアル』の「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。

注記 - NVMe ドライブをインストール先として使用することはできません。これらのドライブは、オペレーティングシステムのインストールやブートをサポートしていません。

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. サーバーに PCIe ホストバスアダプタ (HBA) が正しく取り付けられていることを確認します。
PCIe HBA オプションの取り付けについては、『Oracle Server X6-2 サービスマニュアル』の「PCIe カード (CRU) の保守」を参照してください。
2. Storage Area Network (SAN) が取り付けられ、かつサーバー上のホストでストレージデバイスが認識されるように構成されていることを確認します。
手順については、ファイバチャネル HBA に付属のドキュメントを参照してください。

RAID の構成

RAID (Redundant Array of Independent Disks) 構成でサーバーストレージドライブを構成する場合は、Windows Server OS をインストールする前にサーバーで RAID を構成して

ください。RAID の構成手順については、『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成」を参照してください。

関連情報

- 『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86admindiag/docs>)

Windows Server オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、サーバーに Microsoft Windows Server オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

説明	リンク
インストール前の要件。	31 ページの「準備作業」
	15 ページの「Windows Server オペレーティングシステムのインストール準備」
メディアを使用した Windows Server オペレーティングシステムのインストール。	32 ページの「Windows Server の単一システムへの手動でのインストール」

準備作業

次の要件が満たされていることを確認してください。

- サーバーのストレージドライブで RAID (Redundant Array of Independent Disks) を構成する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に行う必要があります。RAID の構成手順については、[『Oracle Server X6-2 設置ガイド』の「オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成」](#)を参照してください。

注記 - Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA を使用してストレージドライブを管理する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に RAID ボリュームを作成し、それをブート可能にする必要があります。そうしないと、HBA がサーバーのストレージドライブを識別できなくなります。

- インストールを実行する前に、コンソール用ディスプレイのオプションを選択して設定します。詳細については、[15 ページの「コンソール用ディスプレイのオプション」](#)を参照してください。

- インストールを実行する前に、ブートメディアオプションを選択して設定します。詳細については、[18 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- UEFI ファームウェアの設定が最適なデフォルト値に設定されていることを確認します。UEFI ファームウェアの設定を確認し、必要に応じてそれを設定する方法については、[23 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)を参照してください。
- UEFI ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定します。UEFI ブートモードの設定方法については、[26 ページの「ブートモードを設定する」](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、インストール先オプションとして使用されるストレージドライブを選択して設定します。詳細については、[28 ページの「インストール先の選択」](#)を参照してください。
- Microsoft Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステムのドキュメントを収集し、それをこのセクションに示されている Windows Server オペレーティングシステムに関する説明とともに使用してください。Microsoft の Windows Server 2012 R2 インストールドキュメントは、次で入手できます。

<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx>。

Windows Server の単一システムへの手動でのインストール

このセクションでは、Windows Server 2012 R2 (64 ビット) オペレーティングシステムをインストールする手順について説明します。

- [32 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 R2 を手動でインストールする」](#)
- [51 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 R2 をインストールする」](#)

▼ ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 R2 を手動でインストールする

この手順では、ローカルまたはリモートのメディアから、Microsoft Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステムをブートする方法について説明します。次のいずれかのソースから Windows Server インストールメディアをブートするものとします。

- Windows Server 2012 R2 DVD

- Windows Server 2012 R2 ISO イメージ

注記 - Windows Server 2012 R2 の ISO イメージは、リモートインストールやインストール DVD の作成に使用できます。

注記 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[51 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 R2 をインストールする」](#)で手順を確認してください。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。

- **配布 DVD の場合**は、ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブに Windows 2012 R2 配布メディア (単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合**は、Windows 2012 R2 の ISO イメージが使用可能であり、その ISO イメージが Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションで「KVMS」メニューを使用してマウントされていることを確認します。

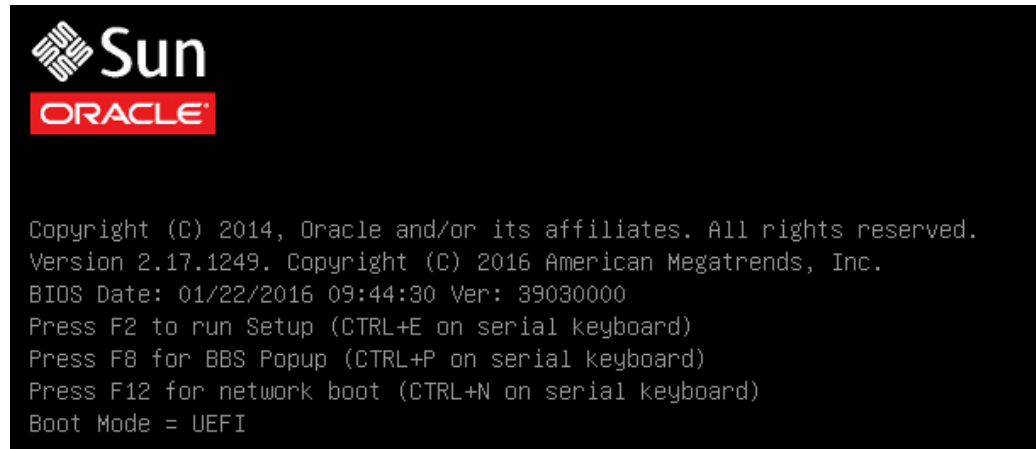
インストールメディアを設定する方法の詳細は、[18 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、次のいずれかを行なってサーバーをリセットします。

- **ローカルサーバーで**、フロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI から**、「reset /System」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



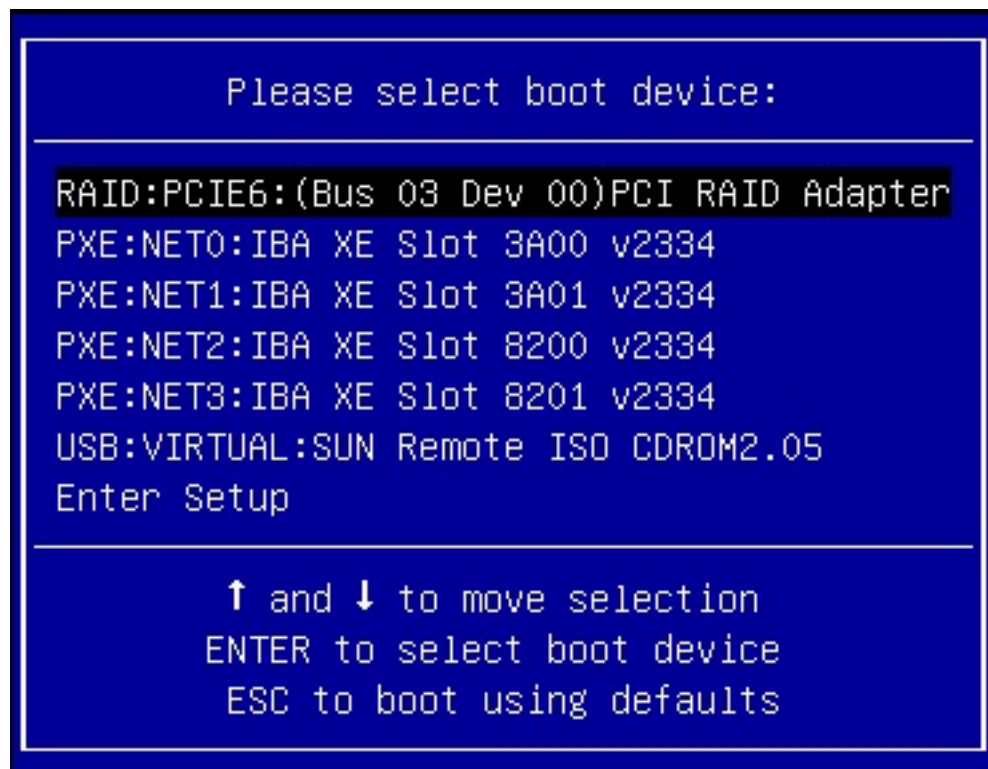
注記 - 次のイベントは非常にすばやく起こるので、F8 キーを押す準備をしておいてください。メッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大することをお勧めします。

3. BIOS 画面で F8 キーを押し、Windows Server OS のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

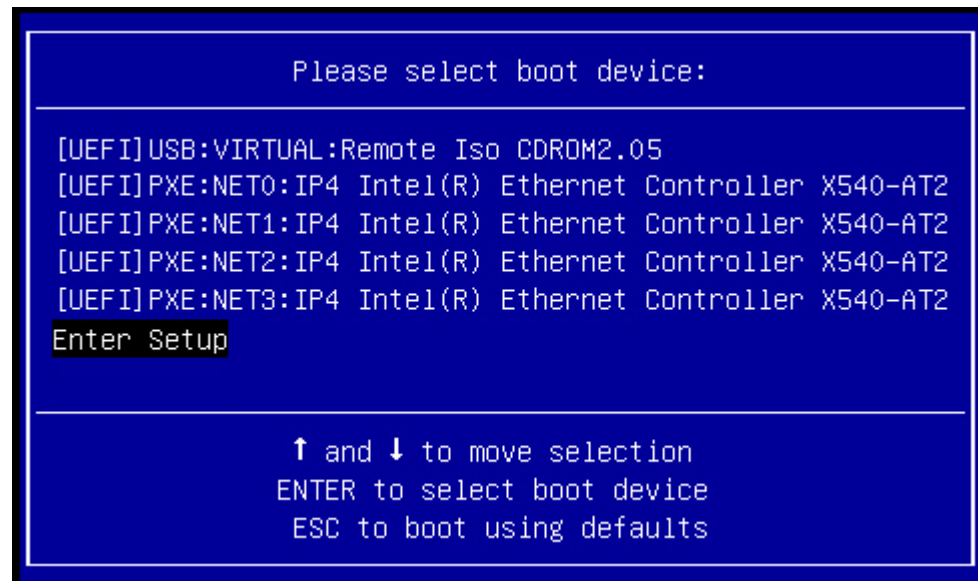
「[Boot Pop Up Menu Selected]」が BIOS 画面の下部に表示されます。

次に、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、UEFI/BIOS ブートモードがレガシー、UEFI のどちらに構成されているかによって異なります。

- レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



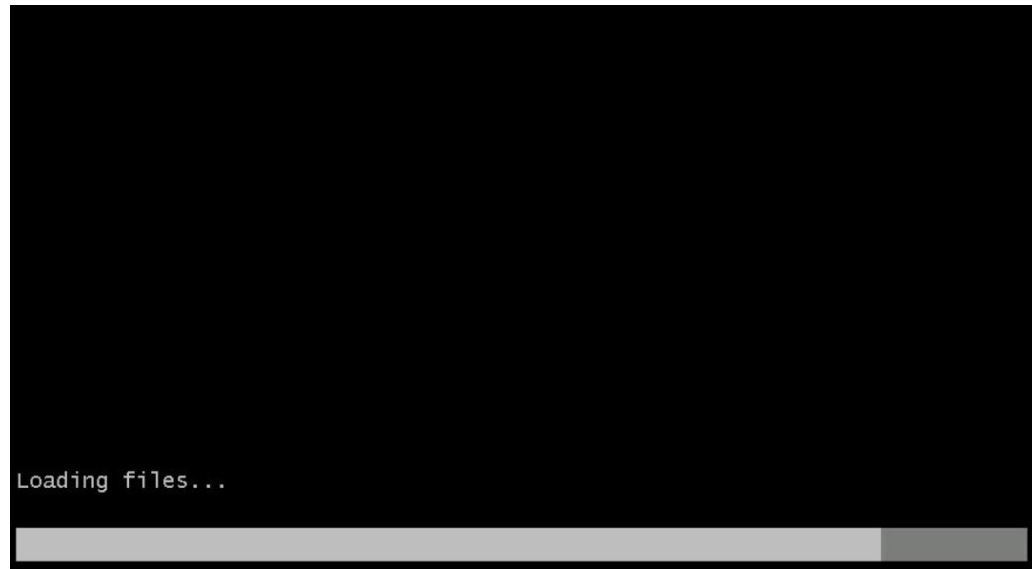
- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - 表示される「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラや PCIe ネットワークカードなどのその他のハードウェアのタイプによって異なる場合があります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用することを選択した Windows メディアのインストール方法と UEFI/BIOS ブートモードに応じたメニュー項目を選択し、Enter キーを押します。
たとえば、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの提供方法を使用することを選択した場合は、「Legacy BIOS Boot Mode」画面から「USB: VIRTUAL: Remote Iso CDR0M2.05」を選択するか、または「UEFI Boot Mode」画面から「[UEFI] USB:VIRTUAL: Remote Iso CDR0M2.05」を選択します。
5. 「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーを押します。

Windows インストールウィザードが起動し、「Loading files」画面が表示されます。



Windows インストールウィザードが進み、言語ローカリゼーションのダイアログが表示されます。



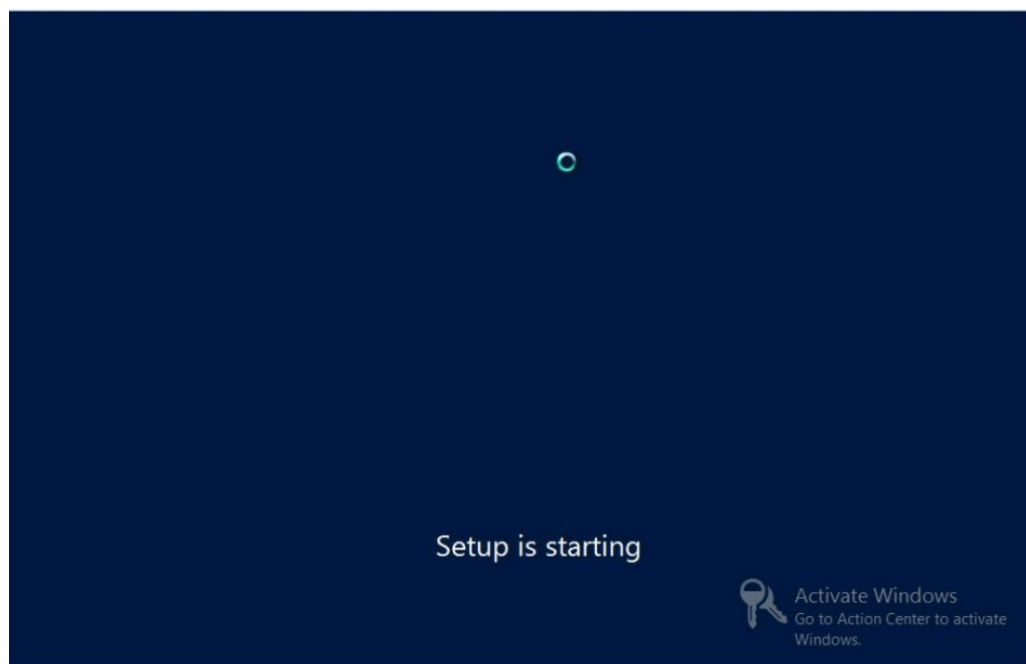
6. 言語やその他の設定を選択したあと、「次へ」をクリックして続行します。
「今すぐインストール」画面が表示されます。

注記 - 「今すぐインストール」画面では、インストールを続行できるほか、オプションの修復メニュー (画面の左下を参照) にアクセスしてトラブルシューティングを行うこともできます。

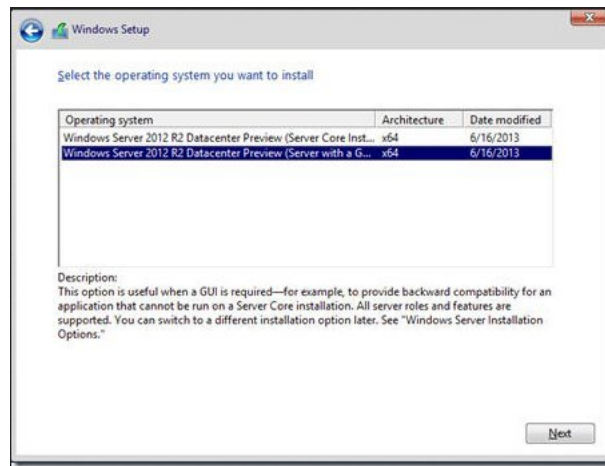


7. 「今すぐインストール」をクリックします。

「セットアップを始めています」画面が表示されます。



「オペレーティングシステムを選択します」 ダイアログが表示されます。

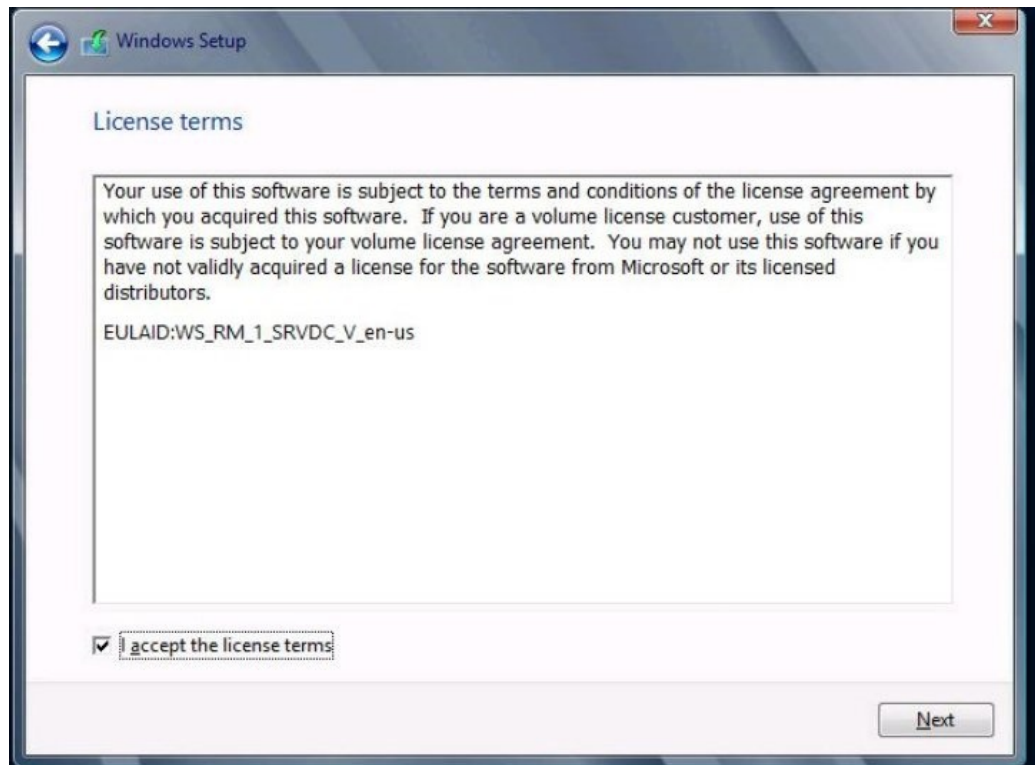


8. 「オペレーティングシステムを選択します」ダイアログで目的のオペレーティングシステムを選択したあと、「次へ」をクリックして続行します。

通常のインストールでは、リストの最下部にある「Windows Server 2012 R2 Datacenter (GUI 使用サーバー)」を選択します。

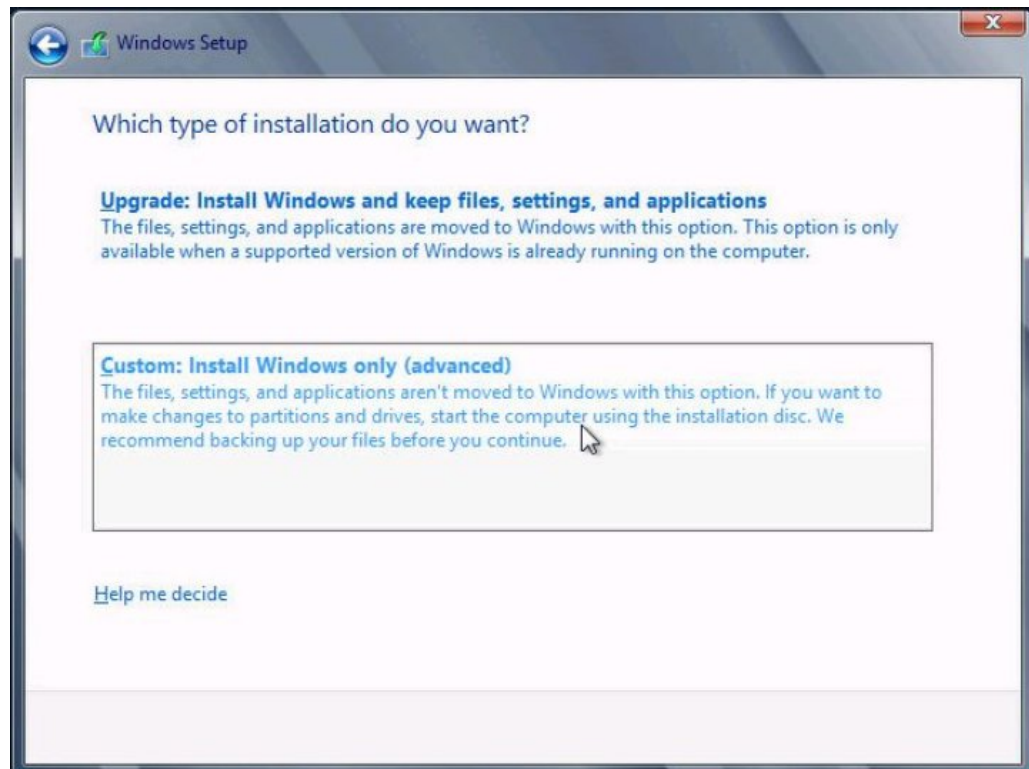
さまざまな種類の Windows オペレーティングシステムの詳細については、Windows Server 2012 R2 のドキュメント (<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/default.aspx>) を参照してください。

「ライセンス条項」画面が表示されます。



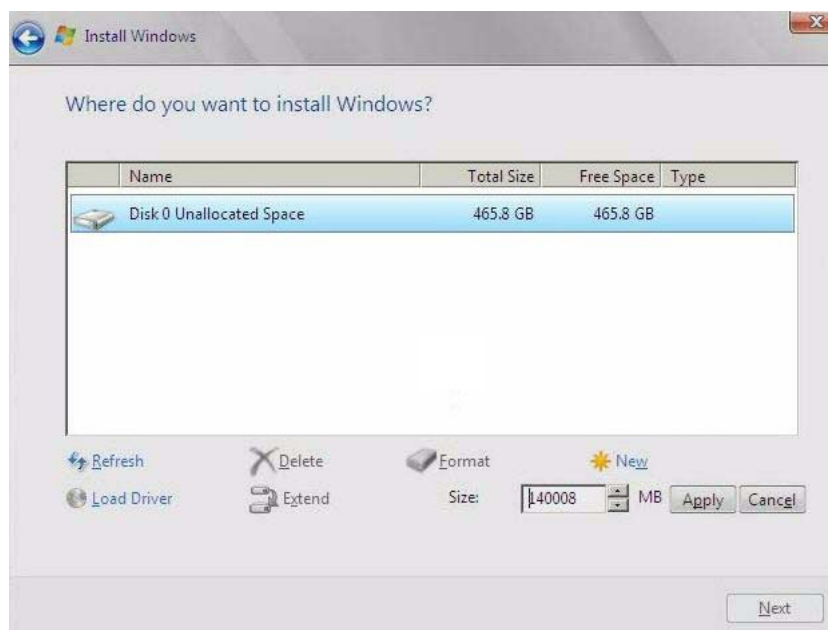
9. 「ライセンス条項」画面で、「条項に同意します」チェックボックスを選択し、「次へ」をクリックして続行します。

「インストールの種類を選んでください」ダイアログが表示されます。

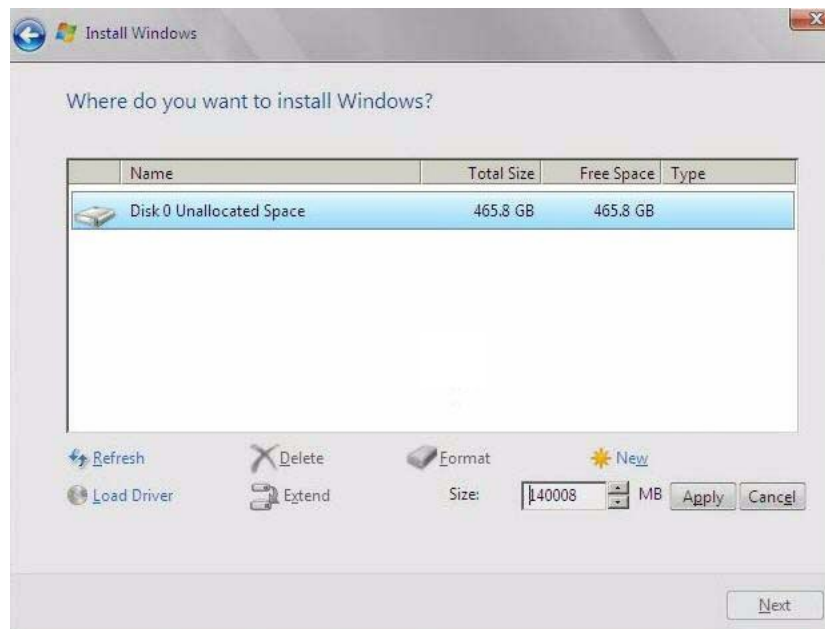


10. 新規インストールでは、「インストールの種類を選んでください」ダイアログで「カスタム: Windows のみをインストールする (詳細設定)」をクリックします。

「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログが表示されます。

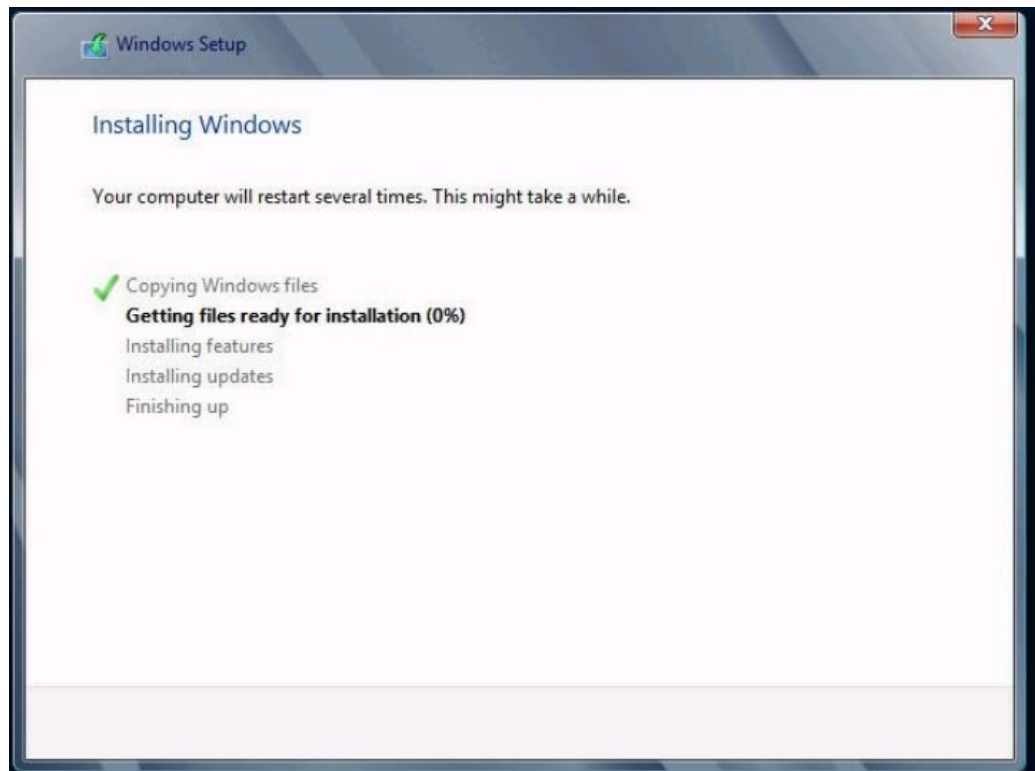


11. (パーティションドライブ、詳細) 「Windows のインストール場所を選んでください」ダイアログの下部で、次の手順を実行します。



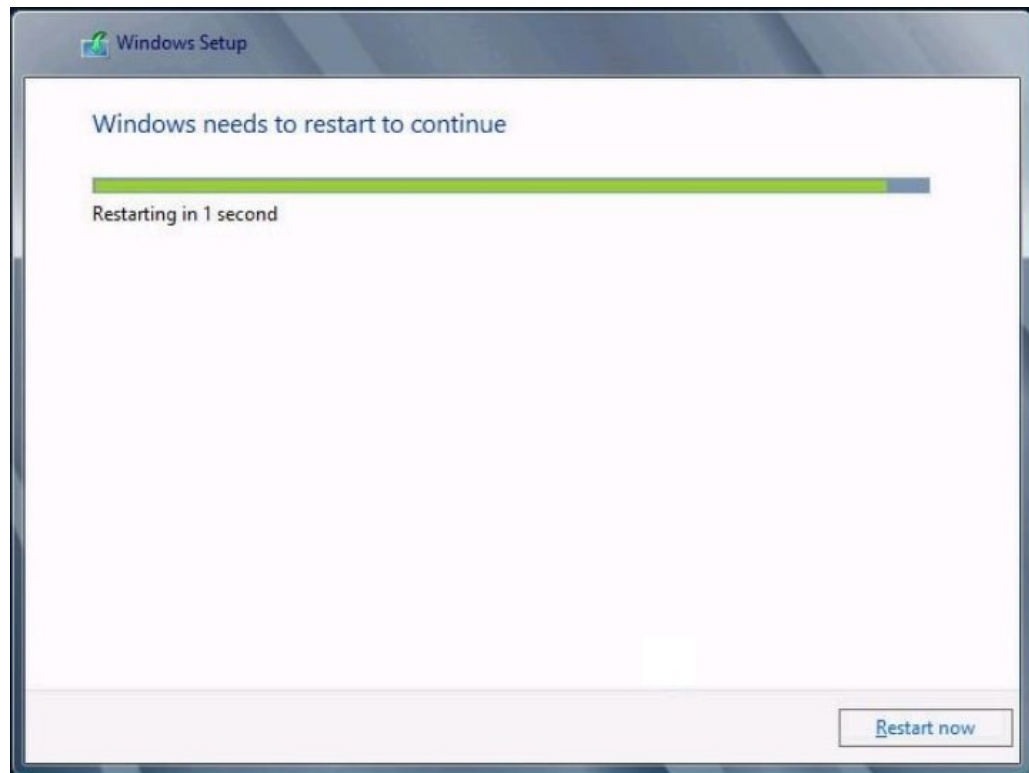
- a. 「削除」をクリックして、選択したストレージ先が存在するパーティション構成を削除します。
確認ウィンドウが表示されます。
 - b. 「OK」をクリックして、パーティションの削除を確定します。
 - c. ターゲットディスク上に追加パーティションが存在する場合は、手順 a と手順 b を繰り返します。
12. Windows Server OS をインストールするディスクを選択 (強調表示) し、「次へ」をクリックします。

「Windows をインストールしています」画面が表示されます。



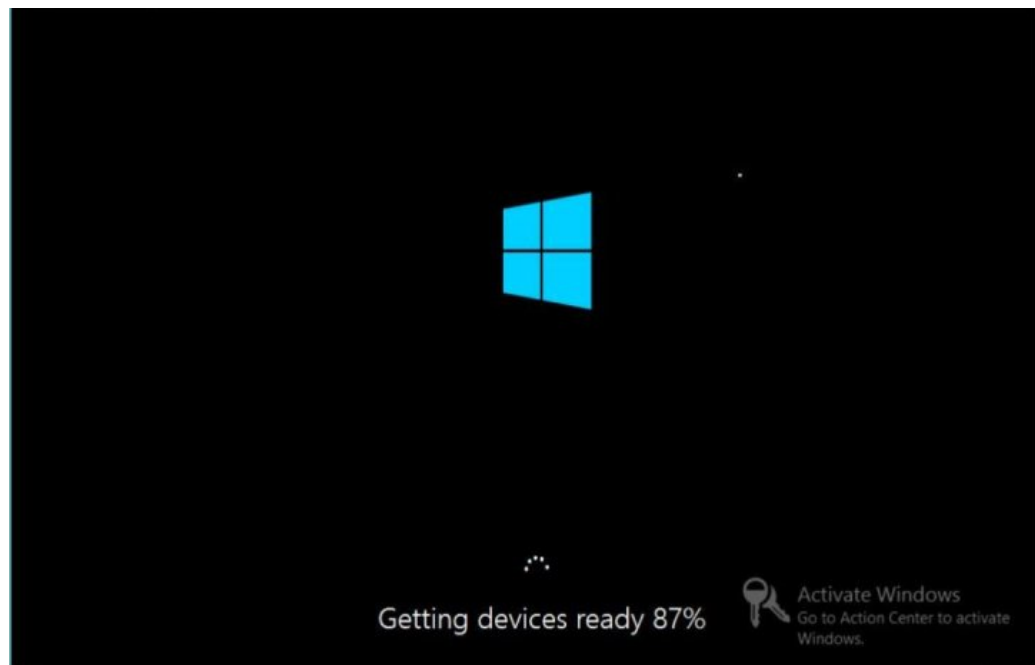
セットアップとインストールのプロセスが開始し、ファイルが宛先にコピーされます。

「続けるには、Windows を再起動する必要があります」画面が表示されます。

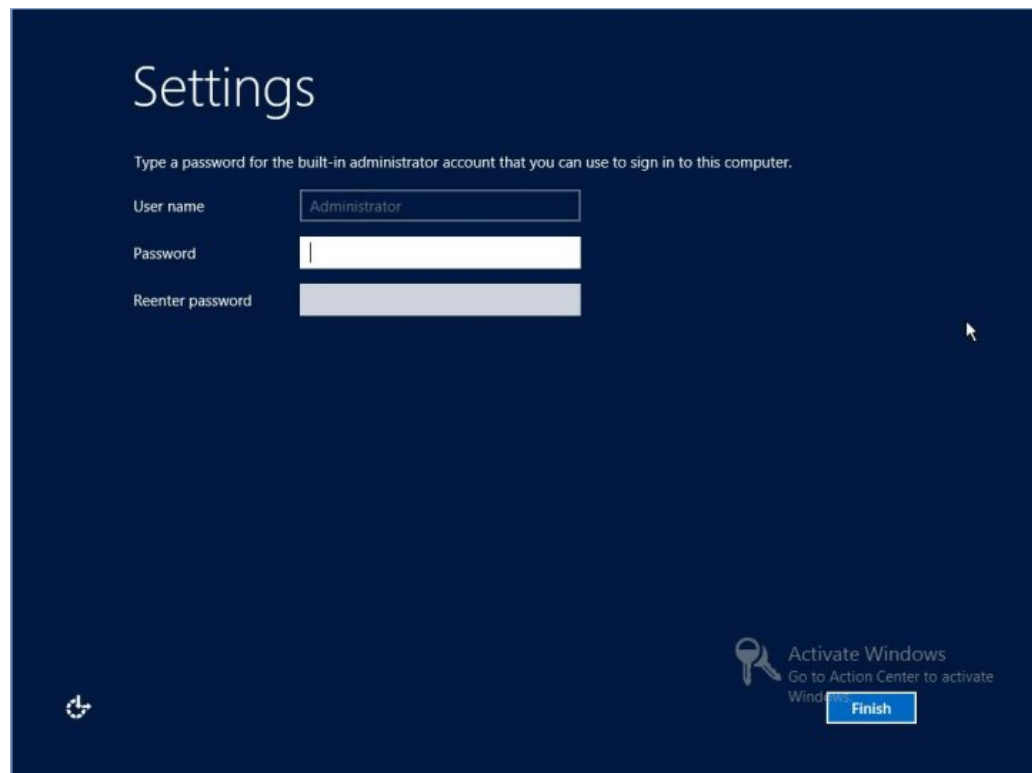


システムがリブートします。

13. システムがリブートしたあと、「デバイスの準備中」画面が表示され、**Windows** インストールウィザードがデバイス設定を構成するまで待ちます。

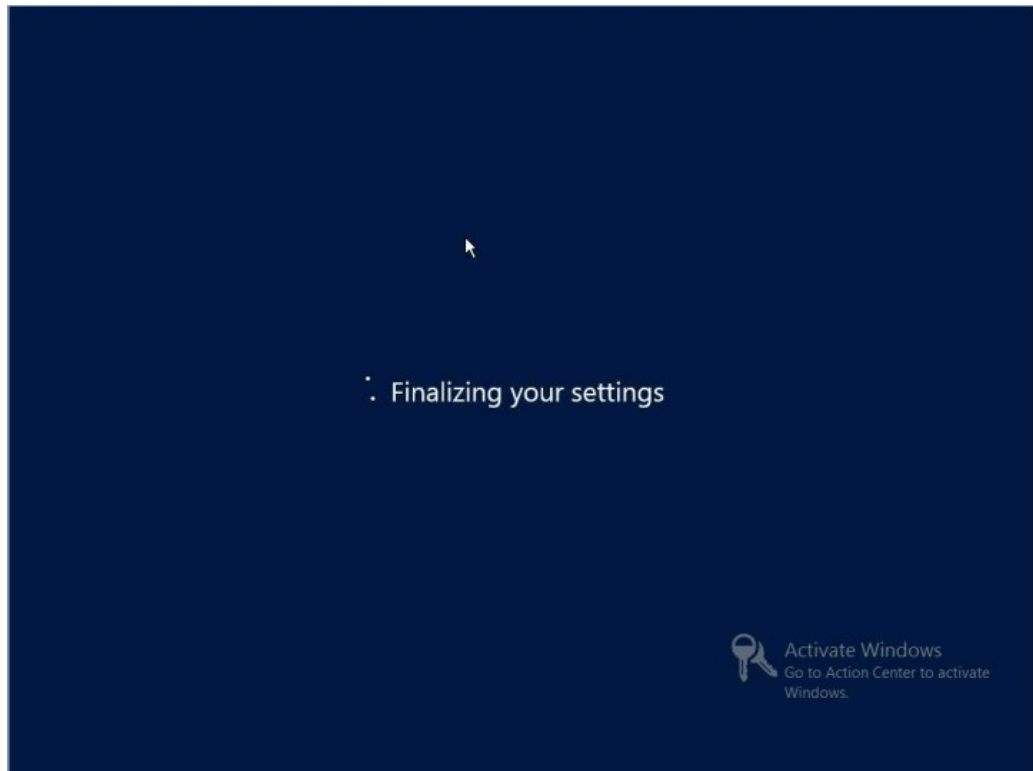


デバイスが構成されたあと、システムがふたたびブートし、「設定」画面が表示されます。



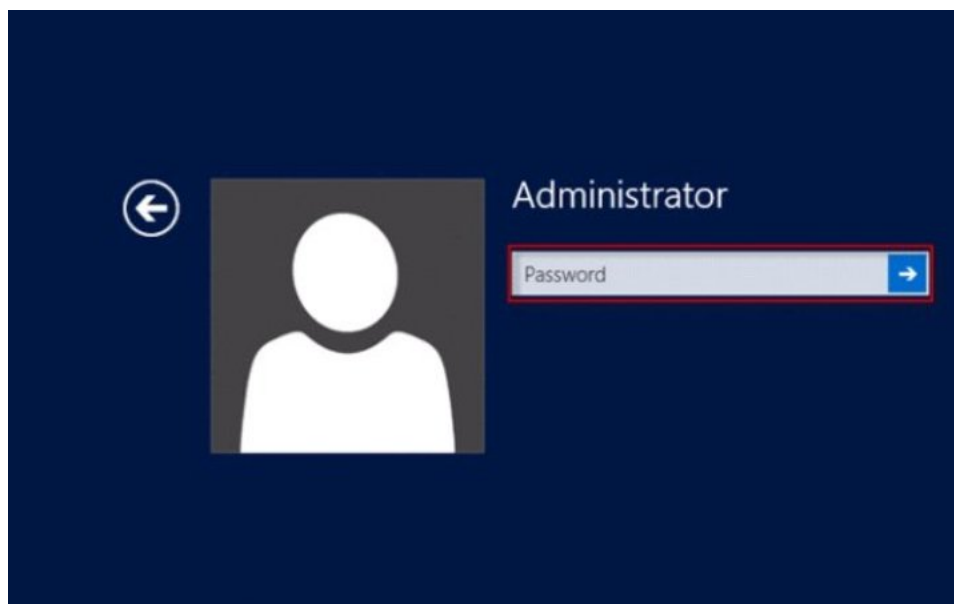
14. 管理者ユーザー名とパスワードを入力し、「完了」をクリックします。
「もう少しで完了します」画面が表示されます。

この画面は、Windows OS がインストールされたことを示しています。



15. インストールが完了したら、**Ctrl+Alt+Delete** を押してログインします。

管理者のログイン画面が表示されます。



16. 管理者のパスワードを入力し、矢印をクリックしてログインします。
Windows Server のデスクトップが表示されます。
これでインストールが完了します。
17. [57 ページの「Windows Server OS インストール後のタスク」](#)に進み、インストール後のタスクを実行します。

▼ PXE ネットワークブートを使用して Windows Server 2012 R2 をインストールする

このセクションでは、お客様提供の Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用して、確立された PXE ベースのネットワーク経由で Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステムをインストールするために必要な初期情報について説明するとともに、従う必要のある手順を示します。

この手順は、Windows 展開サービス (WDS) を使用してネットワーク経由で Windows Server をインストールするための最初の手順を示しています。具体的には、WDS イ

インストールサーバーと通信するサーバー PXE ネットワークインタフェースカードを選択する手順について説明します。WDS を使用して Windows Server 2012 R2 をインストールする方法の詳細は、Windows 展開サービスに関する Microsoft のドキュメント (<https://technet.microsoft.com/en-us/library/jj648426.aspx>) を参照してください。

始める前に PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次のことを行う必要があります。

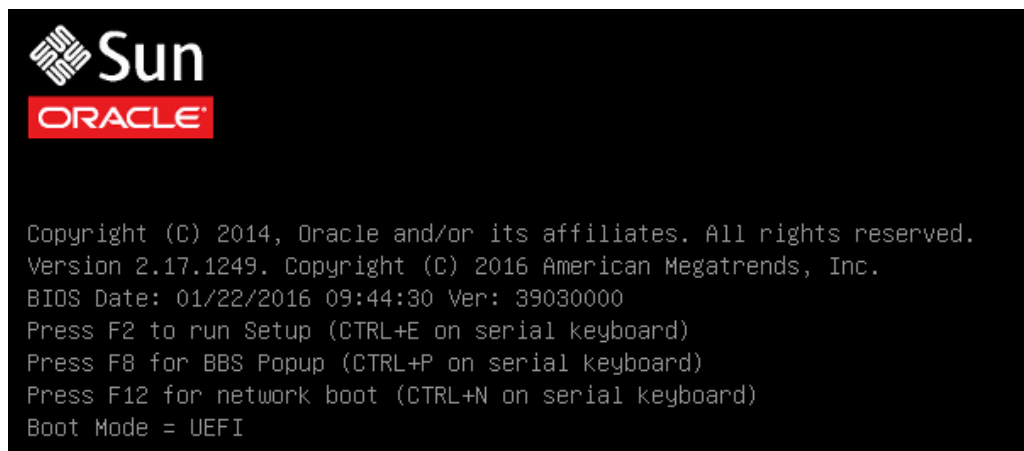
- インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、TFTP、DHCP) サーバーを構成します。
- PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
- PXE 構成からブートするようにサーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
- 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を構成します。

注記 - ローカルネットワークに必要な DHCP サーバーは 1 つだけであるため、DHCP サーバーの構成が不要な場合もあります。

WDS を使用してインストールを実行するには、次のことを行う必要があります。

- 必要なシステムデバイスドライバを `install.wim` イメージに、また必要に応じて `boot.wim` イメージに追加します。
WIM インストールイメージにドライバを追加する手順については、Microsoft Windows 展開サービスのドキュメントを参照してください。
 - WIM の管理者パスワードを取得します。
1. **PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Windows インストールメディアが PXE ブートに使用できることを確認します。**
 2. **サーバーをリセットします。**
たとえば、サーバーをリセットするには:
 - **ローカルサーバーで**、フロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
 - **Oracle ILOM CLI から**、「`reset /System`」と入力します。

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



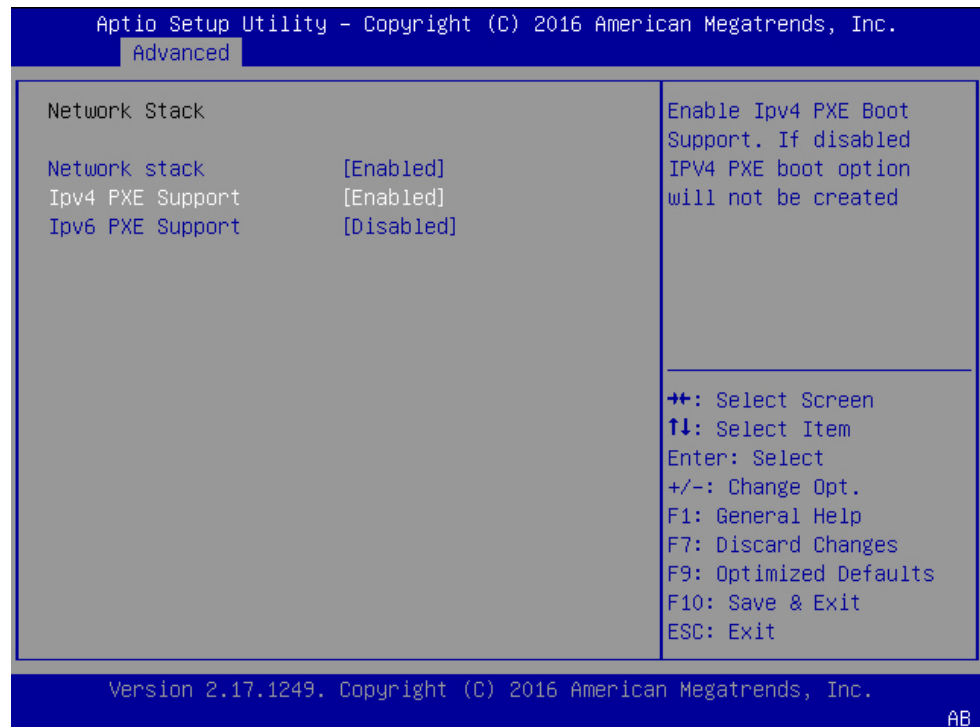
注記 - 次のイベントは非常にすばやく起こるので、F2 キーを押す準備をしておいてください。メッセージは画面に表示される時間が短いため、注意してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大することをお勧めします。

3. PXE ブートが有効になっていることを確認するために、次の手順を実行します。

注記 - PXE ブートはデフォルトで有効になっていますが、この手順では無効になっている場合に備えて、PXE ブートが有効になっていることを確認します。PXE ブートが有効になっていることを確認したら、以降の PXE ブートではこの手順を省略できます。

- a. **F2 キーを押して、BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。**
BIOS 設定ユーティリティが表示されます。
- b. **上部のメニューバーで「Advanced」を選択します。**
BIOS 設定ユーティリティの「Advanced」画面が表示されます。
- c. **使用可能なオプションのリストから「Network Stack」を選択します。**

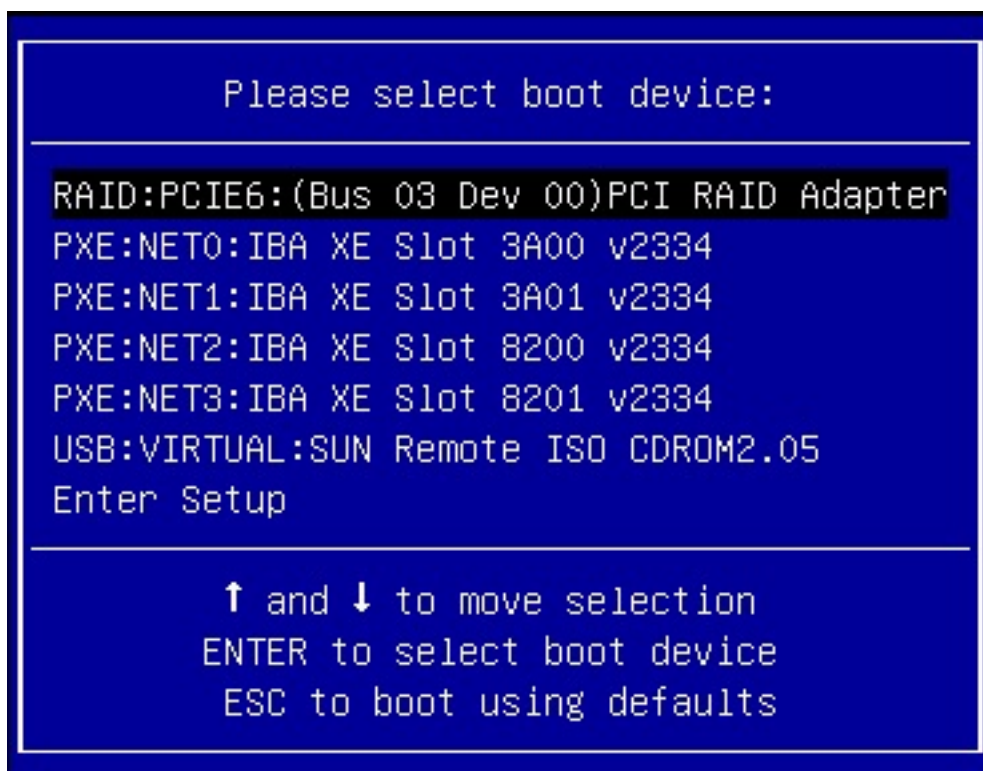
BIOS 設定ユーティリティの「Network Stack」画面が表示されます。



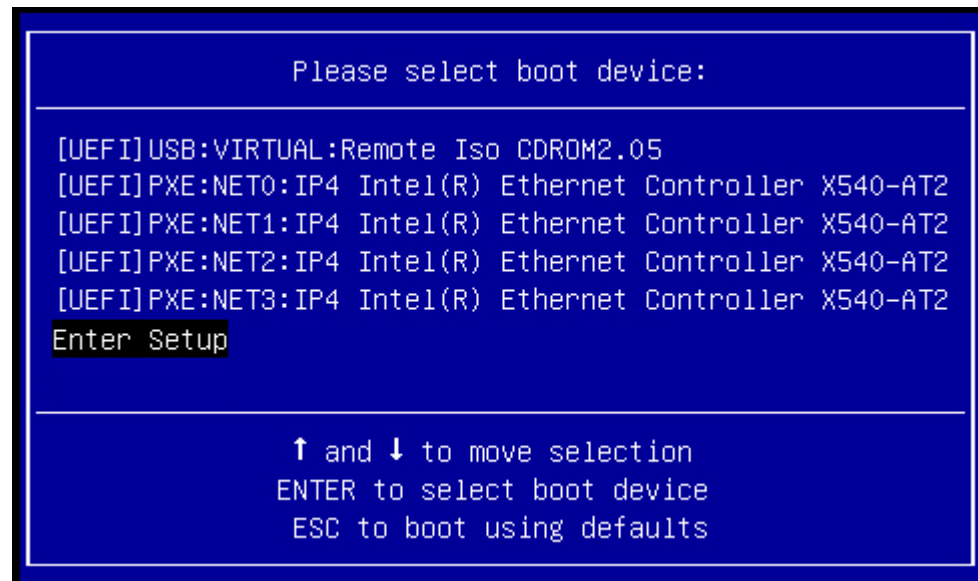
- d. 必要に応じて、該当する PXE サポート設定 (IPv4 または IPv6 のいずれか) を「Enabled」に設定します。
- e. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

これにより、サーバーがリセットされます。リセット後、再度、BIOS 画面が表示されます。

4. BIOS 画面で、F8 キーを押して一時ブートデバイスを指定するか、または F12 キーを押してネットワークブート (PXE) を指定します。
 「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。表示される画面は、BIOS をレガシー BIOS ブートモードに構成したか、UEFI ブートモードに構成したかに応じて異なります。
 - レガシー BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - インストール時に表示されるブートデバイスメニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラや PCIe ネットワークカードなどのその他のコンポーネントのタイプによって異なる場合があります。

5. 「Please Select Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーがロードされ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルのロードが開始されます。
6. インストールを完了するには、[32 ページの「ローカルまたはリモートメディアを使用して Windows Server 2012 R2 を手動でインストールする」のステップ 5](#)を参照してください。

Windows Server OS インストール後のタスク

Windows Server 2012 R2 の手動インストールを完了してサーバーをリブートしたら、次のインストール後のタスクを確認し、必要に応じて、使用しているサーバーに該当するタスクを実行するようにしてください。

説明	リンク
デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールします。	57 ページの「デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール」
NIC チーミングを構成します。	58 ページの「Intel NIC チーミングの構成」

デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストール

InstallPack アプリケーションは、プラットフォーム固有のデバイスドライバや追加ソフトウェアをインストールするためのインストールウィザードを提供します。このアプリケーションは、My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) からダウンロードできます。

OS (オペレーティングシステム) パックに含まれる InstallPack を使用すれば、プラットフォーム固有のデバイスドライバや追加ソフトウェアをインストールできます。OS パックの入手については、『[Oracle Server X6-2 設置ガイド](#)』の「[ファームウェアおよびソフトウェアの更新の入手](#)」を参照してください。

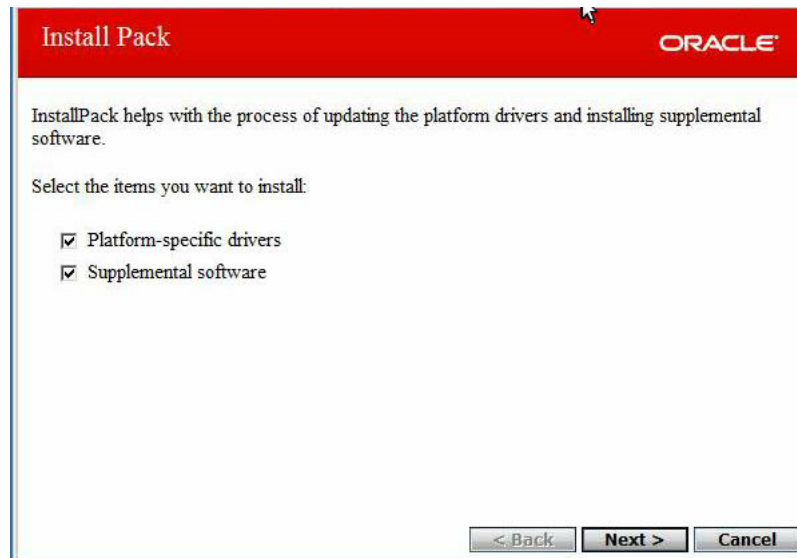
次の手順では、InstallPack を使用して、デバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

- [57 ページの「サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする」](#)

▼ サーバー固有のデバイスドライバと追加ソフトウェアをインストールする

1. インストールパックウィザードの実行可能ファイル `InstallPack.hta` をクリックします。

「Install Pack」ダイアログが表示されます。



2. 「Install Pack」ダイアログで、「Next」をクリックして、デフォルトのインストール可能な項目を受け入れます。

注記 - 最新バージョンのドライバを確実にインストールするために、デフォルトのインストール可能な項目を常に受け入れるようにしてください。

インストールパックの注意ダイアログが表示されます。

3. 画面に表示されるプロンプトに従い、デバイスドライバと追加ソフトウェアのインストールを完了します。

Intel NIC チーミングの構成

環境に合わせて Intel NIC チーミングを設定する方法については、Advanced Networking Services Teaming に関する次の Intel 接続 Web ページを参照してください。

<http://www.intel.com/support/network/sb/CS-009747.htm>

また、使用しているサーバーのネットワークアダプタ用に、Intel のネットワーク接続のユーザーガイド一式を次からダウンロードできます。

<http://www.intel.com/support/network/sb/cs-009715.htm>

索引

あ

インストール

- Oracle Enterprise Manager Ops Center, 11
- PXE ネットワークブートの使用, 51
- インストールタイプの選択, 41
- オプション, 11
- 言語の選択, 38
- 手動, 12
- タスクマップ, 9
- 単一サーバー, 11
- 特定のオペレーティングシステムの選択, 38
- メディアの使用, 32
- ローカルまたはリモートのメディアの使用, 32

インストール後

- Intel NIC チーミングの構成, 58
- 追加ソフトウェアのインストール, 57
- デバイスドライバのインストール, 57

インストール後の

- タスクの概要, 57

インストール先

- オプション, 28
- ファイバチャネル Storage Area Network (SAN)
- デバイスの設定, 29
- ローカルストレージドライブの設定, 29

インストール先オプション

- オプションの選択, 28

インストール方法

- ブートメディアオプション, 18

オペレーティングシステムのインストール

- 概要, 9
- サポートされているオペレーティングシステム, 10

オペレーティングシステムのインストールの概要, 9

か

構成

- Intel NIC チーミング, 58
- RAID, 30
- コンソール用ディスプレイのオプション
- オプションの選択, 15

さ

- サーバー、電源のリセット, 52
- サポートされているオペレーティングシステム,
10, 10
- ソフトウェア
- インストールオプション, 11

た

- タスクマップ
- インストール, 9
- 追加ソフトウェア
- インストール, 57

は

- ブートメディア
- 要件, 18
- ブートメディアオプション
- オプションの選択, 18
- ブートメディアのインストール, 18

ら

- リモートコンソール

- 設定, 17
- リモートブートメディア
 - 設定, 20
 - 要件, 19
- ローカルコンソール
 - 設定, 16
- ローカルブートメディア
 - 設定, 19
 - 要件, 18

- ISO イメージ, 33
 - サポートされているオペレーティングシステム, 10
- Windows Server OS のインストール
 - 単一のサーバー, 11
- Windows 展開サービス, 12

B

BIOS

- 最適なデフォルト設定の確認, 23
- 設定を編集および表示するための手順, 23
- ブートモードの設定, 26

I

InstallPack

- 追加ソフトウェアのインストール, 57

Intel NIC チーミング構成

- インストール後, 58

ISO イメージ, 33

P

PXE インストール, 52

R

RAID

- 構成, 30

U

UEFI

- 設定, 22

W

Windows OS